

中学生体験学習事業概要について

【事業の目的】

中学生が体験学習を通して、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活が持続できるよう現代の様々な問題を直視し、ESD(持続可能な開発のための教育)の理念に則り、生徒自らが新たな価値観や行動変容を生み出し、持続可能な社会を創造していく態度を育む。

学校における教育環境は ICT 教育の進展により、スクリーンを通して瞬時に情報入手が可能となり、バーチャルな体験や空間に出会うことが日常化されている。将来の愛西市を担い、市や社会に潜む問題を自分事として主体的に考え、身近なところから取り組んでいく生徒を育むため、直接、現地視察・調査をはじめとする実体験学習を行い、本物と出会い、本物が持つ迫力や背景・雰囲気を経験し、関心・意欲を増し、生徒一人一人の学習意欲を喚起する。

【基本計画】

- ①事業目的
- ②行先
- ③時期と日数
- ④対象学年
- ⑤現地体験
- ⑥経費と財源
- ⑦その他

【今後の予定】

今年度：委員による現地候補地視察（基本計画策定）

令和 4 年度：全中学校長による現地視察（学校行事への位置付け）

【※以降、令和 5 年度から事業実施可能見込の場合】

担当学年教師による現地視察（事業実施への調整）

令和 5 年度：事業開始

愛西市中学生体験事業の目的

新型コロナウイルス感染症の拡大や、Society5.0時代の到来を受けたGIGAスクール構想の実現に向けた取り組みにより、学びの在り方は大きく変わりつつあります。児童生徒1人1台端末と各校に高速大容量通信ネットワークが整備され、個別最適な学びと協働的な学びを実現するため、端末を活用した授業が展開されています。情報検索が容易になったり、理科の実験や数学の図形の変化が可視化されたりと、様々な教科で学びの深化が期待されますが、その一方でインターネットやテレビ等を介して感覚的に学びとる「間接体験」や、シミュレーションや模型等を通じて模擬的に学ぶ「疑似体験」の機会が圧倒的に多くなり、子供たちの成長にとって負の影響を及ぼしていることが懸念されています。

また、2020年度から順次実施されている新しい学習指導要領に、地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こす力を身に付ける「持続可能な開発のための教育（ESD）」の理念が組み込まれ、これからの学校にはこのESDの推進が必要とされています。

2015年9月にニューヨークで実施された国連サミットにおいて、150か国以上の首脳参加により「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、SDGsが掲げられました。ESDは目標4「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯教育の機会を促進する」のターゲット4.7に位置付けられ、さらに2017年12月の第74回国連総会においてSDGsの17全ての目標の実現に寄与するものであると確認されております。

愛西市教育委員会は、「ひと」や「もの」、「実社会」など対象となる実物に実際に関わっていく「直接体験」を通して、現実の世界や生活などへの興味、関心、意欲を向上させることが大切だと考えます。実際の生活や社会、自然の在り方を学び、そこで得た知識や考え方を基にして、自分や自分の周りにある問題、自分たちの住む愛西市に潜んでいる問題、ひいては現在の社会が抱えている問題を発見し、どうすれば解決できるかを考え、身近なところから取り組んでいけるようになってもらいたいと願います。そして、豊かな人間性と、主体的に学び考え、生きる力を持ち、郷土を愛し、日本の将来を担っていく生徒を育てていきたいと考えます。